



所沢—魅力・不思議発見  
 「あんだかや」「あんだんべえ」  
 刊行!

■本書の体裁  
 A5判 416 ページ カラー  
 (写真・図版 約440枚)

所沢—魅力・不思議発見 「あんだかや」「あんだんべえ」  
 さいたま民俗文化研究所 企画・編集

◎定価 1部 2,500円+税 (送料無料)

■申込み書 住所・氏名・部数を御記入の上、さいたま民俗文化研究所までお申込みください。

申込み先	さいたま民俗文化研究所 (所長 大館 勝治)		
	〒359-1146 埼玉県所沢市小手指南5-6-9		
	TEL 090-1117-5506 E-mail: s_minzokukenkyujyo@jcom.home.ne.jp		
申込み者	〒 住所	申込み部数	部
	氏名	備考	

# 「自然を守り、文化遺産を後世に！」

書名の「あんだかや」「あんだんべえ」は「ダンベ言葉」を用いていた時代に頻繁に飛び交っていた方言である。

「あんだかや」は、人の話に相槌を打つ際、疑問があるような「そうなの？」という意味と、納得する「そうなんだ」という意味があり、人との会話の中で、相手の話の内容をおもんばかつて、受け身の言葉としてイエス・ノウで即答せず、一呼吸入れる言葉として、頻繁に使われていた。市内のみならず近隣の地域でも広く使われていて、東村山市出身の名優・志村けんさん（故人）も「あんだかや」を使って受けていたことを思い出す。

「あんだんべえ」も、会話の中で用いられてきた方言で、「何だろう？」という疑問を発する方言として、相手の話に少し疑問があるようなときに使用してきた。

本書は、郷土所沢を愛し、魅力ある所沢を後世に引き継いでいこうと日ごろ活躍されている方々にお願ひして、原稿を寄せていただいた。

読者が読後に「あんだかや」「あんだんべえ」をそれぞれお国言葉で発してもらえれば、本書刊行の目的は達成できたことになる。

## ■ 本書の構成（目次抜粋）

- 1 昭和時代の原風景
  - 狭山丘陵の原風景は雑木林
  - トトロの森が未来を繋ぐ
  - 赤土を黒土に
  - さつま芋の来た道
  - 所沢最後の養蚕農家
  - 古民家を後世に
- 2 「所沢」呼称考
- 3 カマキリの生態
- 4 所沢の方言
- 5 子どもの遊び
- 6 暮らしの中の年中行事
  - 正月行事
  - 盆行事
  - 3 日々の生活に活力を
  - 重松流祭り囃子
  - 岩崎獅子舞
  - 藤の花咲く謎の空間
- 7 不思議や謎、伝承を追う
  - 東の上遺跡
  - 「鼠小僧次郎吉」小手指原を走る
  - 洪沢栄一がかかわった青い目の人形
  - 明治天皇ゆかりの名家・齊藤家
  - 街の盛衰・賑わいの変容
  - 飛行場ができた！
  - 所沢駅の誕生
  - 保健所発祥の地
  - 所沢織物、百花繚乱
  - 郷土ゆかりの人々
  - 幕末・明治のサロン・ド・キタノ
  - それでも三ヶ島葎子の子守唄
  - 郷土の俳人、俳小星小伝
  - 郷土の施設訪問
  - クロスケの家
  - 所澤郷土美術館
  - 所沢市埋蔵文化財調査センター
  - 所沢航空発祥記念館
  - 角川武蔵野ミュージアム

